

《担当者名》 白石 淳[jun-jun@hoku-iryu-u.ac.jp] 村田 政孝(非)

【概要】

教職課程で履修した学修をもとに、高等学校等の教育現場における実践（観察、参加、実習他）を通して、教育者として愛情を深め、将来教員となるうえでの資質能力（生徒の実態（含む生徒の心理他）の把握、教科の指導方法、ホームルーム経営・学校経営、生徒・進路指導の指導法、教員の職務及び責任等）、態度を修得する。加えて、自己の教員としての適性を考えるとともに、その責務を自覚する。

【学修目標】

1. 生徒の実態と、これを踏まえた学校経営（経営方針）・教育活動の特色（含む組織体制）を理解できる。
2. 生徒の価値観形成を育む教科指導の具体的な展開方法及びホームルームの運営方法等を修得できる。
3. 授業、ホームルーム、学校行事、部活動等の特別活動、総合的な学習の時間の実践を通して、教員に必要な知識・技能が高まる。
4. 教員の職責を理解し、教職に対する自覚が持てる。

【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
第1週目	実習校・生徒の理解、教員の職責について	学校運営と運営のきまりなどについての理解を深める。 教員の職務内容についての理解を深める。 生徒の学習の様子などについて観察をとおして理解する。 教員の授業の方法などについて観察をとおして理解する。 教材研究・学習指導案の作成を行い、授業の準備を整える。	白石・村田
第2週目	教材研究・授業実践、特別活動の指導、総合的な学習の時間の指導、生徒指導について	教材研究・学習指導案の作成を行い、授業の準備を進める。 教科の指導方法の習得、生徒の理解、教員の職責の理解を深める。 特別活動、総合的な学習の時間の観察・参加・実習を行い、その展開方法を修得する。 生徒指導を行い、生徒の理解、その指導方法を修得する。	白石・村田

【授業実施形態】

面接授業

授業実施形態は、各学部（研究科）、学校の授業実施方針による

【評価方法】

1. 教育実習日誌の記載内容と実習状況
 2. 研究授業における教科指導（授業）の状況（学習指導案、授業展開等）
 3. 実習校による評価結果（観点別）
- 1～3を総合して評価する（100％）。

【教科書】

「教育実習の手引（第7版）」（学術図書出版）
「高等学校教科用図書」（実習校で指定する教科用図書）

【参考書】

「高等学校学習指導要領」（文部科学省 東山書房）
「高等学校学習指導要領解説 公民編」（文部科学省 東京書籍）
「生徒指導提要」（文部科学省 教育図書）
「国語辞典」

【備考】

1. 実習を履修できる要件（実習を行うまでに取得している科目・単位）は、「教職課程履修ガイド」に記載してあるので、確認すること。また、実習の準備不足などにより実習を行わないこと、途中で中止させることもある（履修ガイドを参照）。
2. 実習の際の注意事項などは、実習前に配布するので、熟読すること。
3. 必要に応じて、実習前後において個別指導を行う。

【学修の準備】

1. 実習を行う学校の現況について調べ、十分理解しておくこと。
2. 教科・科目の教科用図書の内容について、十分理解しておくこと。
3. 作成してきた公民（政治経済、倫理）に関する学習指導案、授業展開などを見直すこと。
4. 授業の教材に活用できる資料を収集すること。
5. 教科用図書に現れるキーワードについて、図書館、インターネットの検索サイト等を活用して事前に調べること。
6. 学習内容の関連事項が生徒の意識や日常生活とどのように関わっているかを理解しておくこと。
7. 実習授業後に学習内容がどのように定着しているか、その後の探究心にどのように発展しているかを調べる方法を理解しておくこと。
8. 学校の運営システムについて十分理解しておくこと。
9. 授業、個別指導等をとおして、準備する課題を指示するので、その課題に取り組むこと。

【免許法施行規則に定める科目区分等】

「教育実践に関する科目」の「教育実習」に該当する。

【実務経験】

白石淳（高等学校教諭）、村田政孝（高等学校教諭・道教委教育指導監）

【実務経験を活かした教育内容】

高等学校・教育委員会勤務の実務経験を活かし、実践的な教育を行う。